

1. 各支援者による工夫した活動の具体例

● 居場所づくり

- ・公園等の屋外で実施
- ・弁当・食材の受渡し等に切り替えたり、事前に電話で相談事項を聴取することなどにより、接触時間を極力減らして実施
- ・電話や、テレビ電話等オンラインを活用した学習支援など、非対面式に切り替えて実施

● 見守り支援

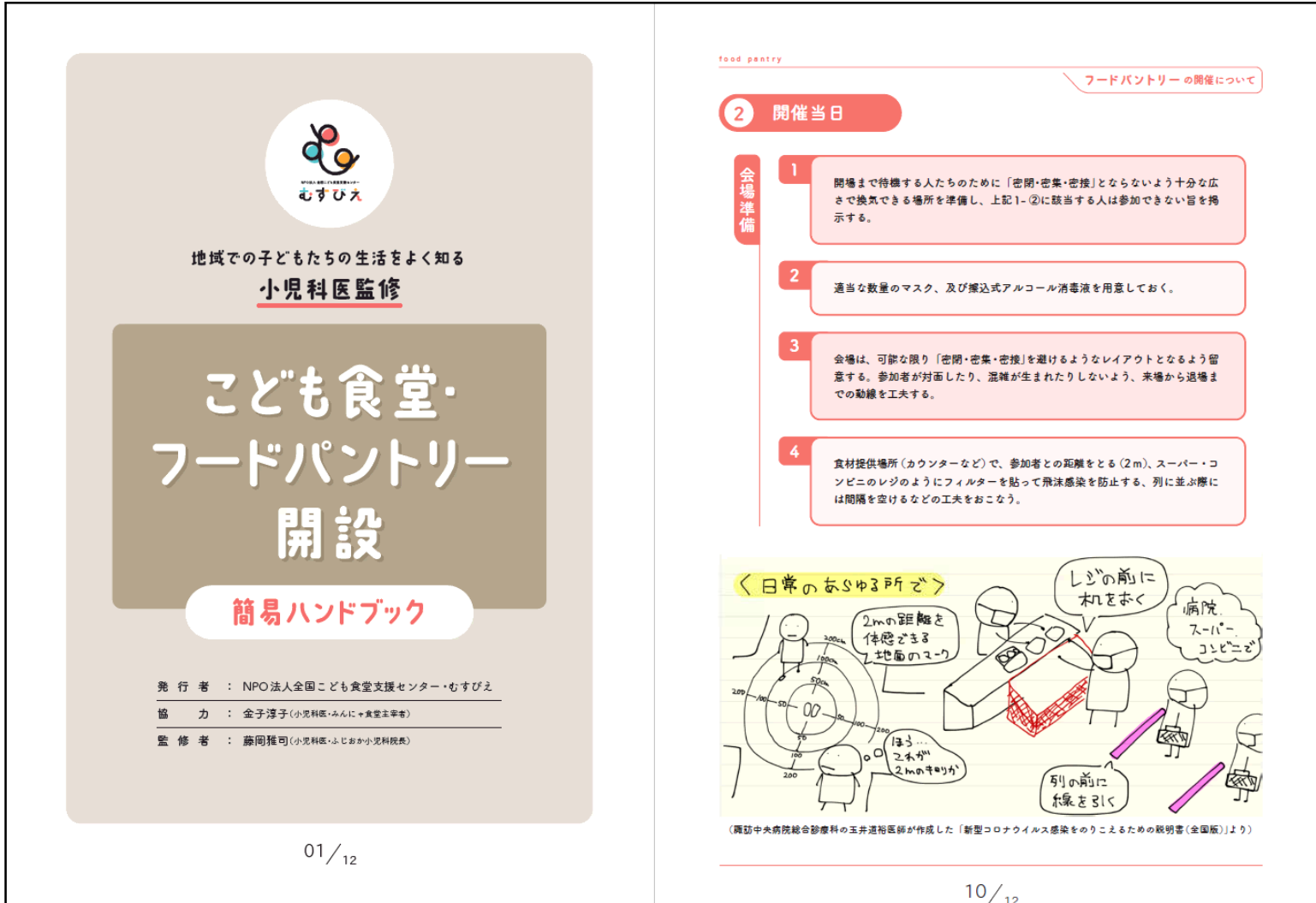
- ・支援員等が戸別訪問
- ・弁当、情報誌、自宅でできる体操メニューのチラシ等の配達
- ・ガラス越しで電話
- ・テレビ電話、電話、手紙などの非対面式アウトリーチ

2. 各支援者による活動の拡がりを支援する具体例 (次ページ以降参照)

- ・小児科医監修の下「こども食堂・フードパントリー開設簡易ハンドブック」を作成し、子ども食堂やフードパントリー（食材配布）を工夫して実施する方法について情報提供
(NPO法人全国こども食堂支援センター・むすびえ)
- ・感染症防止の対策を講じつつ、全国各地の創意工夫を凝らした「新しいつながり方」の情報を収集し、情報発信
(NPO法人全国コミュニティライフサポートセンター)

事例①こども食堂・フードパントリーの開設簡易ハンドブック

子ども食堂やフードパントリーの開設時や開催当日の留意点等を記載



事例② つながる通信

全国各地の「新しいつながり方」について、具体的な方法やポイントを掲載し、情報発信

つながりを切らない
孤立させない
新しいつながり方を提案する



つながる通信

電話をかけた、気になる人には生活支援を
思いをつなげ、広げる

NPO法人なごみは、小学校区に住む人を対象にした誰もが気軽に立ち寄れる「まちcafeなごみ」を運営しています。1杯100円のコーヒーなどを飲みながら過ごせる居場所として、西宮市から一般介護予防事業を財源とする運営補助を受け、運営しています。

現在は、こうしたカフェ機能をはじめ、介護予防体操教室や夜の食事会など、まちcafeなごみで行う事業は休止していますが、4月のパートナースタックが、気になるひと一人暮らしの人いつも来ている人に電話をし、安否確認や話し相手をしていきます。

NPO法人なごみは、2019年7月から「まちのよつら屋」という生活支援事業に取り組んでいます。3月下旬か

第4号
発行日 2020年4月30日(木)
発行元 「つながりを切らない」情報・交流ネットワーク
〒81-0932
兵庫県西宮市東町16-30 シンズイ体健ビルF(CLC)R
FAX:022-727-8737 E-Mail:t-net@clc-japan.com
ホームページ:準備中

・学生委員、児童委員の皆さんに...
・コロナや地域のボランティアの皆さんに...
・販売のお手帳に掲載...
ごんあふみに使っています

この通信の印刷、配布はご自由にご利用ください。記事やイラストの一部を転載・転用する場合は、t-net@clc-japan.comまでご連絡をお願いします。

「以前は集い始める途中、スパバーに立ち寄ることで買

「前は集い始める途中、スパバーに立ち寄ることで買

こうした取り組みにメディアも注目 新聞紙上で紹介されると、北海道大正大学部の3人学生から問い合わせがありました。学校が休校中であり、困っている人が多くいる。自分たちも何かできたい、という相談でした。そこで、オンライン会議を利用し、よろず屋の事業やノウハウを伝えています。「まずは仲間集めをしてみよう」と田村さん、すでに3回の会議を重ねながら、支援へのスキルを積み重ねています。

西宮市内には、まちcafeなごみのほかに複数のつなごみがあります。つなごみとしての役割があってもでき

ることを考えよ」と、つなごみ運営者としてオンラインコミュニティも実施しています。各つなごみの場が連携し、支え合いの輪を広げる活動がスタートします。

つなごみポイント
「気になる人には電話をかけて、つながりを切らない」という思いをもつ仲間をつなげ、つなごみを広げたい。

北海道大学の学生とオンラインでつながり、ノウハウを伝授

つなごみ運営者とオンラインミーティングで、支え合いの輪を広げる活動

見守り拡充、買いもの代行も
あったかふれあいセンターとかの「集い」

高知県佐川町と高野地区にある小規模拠点施設「あったかふれあいセンターとかの」では、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、「集い」（常設型サロン）などの利用受け入れを3月9日以降休止。4月1日再開し、10日なら再び休止しています。

一方で、一人暮らし高齢者などの見守り訪問は継続しています。4月中旬からは、集いの常連利用者も見守り対象に加え、件数は従来の約50倍が手前約130世帯に、スタッフ4人が手分けして訪問し、手通りの布マスクを渡すなどしながら、生活状況を確認しています。見守り訪問の対象者は、集いの住民にも気にかけてもらうようにしています。

見守りの対象には、集いの代行サービスも始めました。スタッフが依頼を受け付け、購入する商品のメモと代金を受け取ります。近隣のスーパーで買い取りました。依頼者に配達も見守りをするようにしています。

「以前は集い始める途中、スパバーに立ち寄ることで買



あったかふれあいセンターとかの「集い」（常設型サロン）、現在は休止中

いもの支援をしてきました。現在は感染予防のため本人全スパーに連れて行くのではなく、代行してもらいます」とセンターのコーディネーター、森田有紀さん。

こうしたセンターの対応は、事前にチラシをポストに入れて通知したり併せて、体操や畑仕事などに取り組みたり、友人らと連絡を取り合ったりしているからかを書込むカレンダーも配布しています。チラシなどを配布したあとには必ず電話をかけ、ポストの中身を確認するよう呼びかけています。

電話や訪問を通じて、「お隣の得意な複数の高齢女性が手づくりマスクを近隣にプレゼントしている」（森田さん）といった住民同士のつながりと支え合いも、新たに知ることができています。

※あったかふれあいセンター 高知県高野地区高野小規模拠点施設、市町村長補助を利用して開設。運営は公益法人やNPO法人、民間企業、団体等に委託。

つなごみポイント
「集い」は中止でも、集いの代行サービスも始めました。スタッフが依頼を受け付け、購入する商品のメモと代金を受け取ります。近隣のスーパーで買い取りました。依頼者に配達も見守りをするようにしています。

編集後記
先日、あるお寺の前を通ったら、「和蘭愛語」と書かれた看板が掛けられていました。晴いニュースや深刻な状況を見聞きするたびに、自分自身にも余裕がなくなり、感情を抑制しがたくなったことに気がおきました。こんなときだからこそ、この言葉も大切にしたいと思います。

<各地の実践をお寄せください！>

「つながる通信」では、各地での実践を募集しています。「[が]まちでこんな取り組みをしている」「私たちがこんな工夫をして、気になる人とつながっている」、そんな情報を編集部までお寄せください。後日、編集部より電話などで取材をさせていただきます。本通信やホームページ等で紹介させていただきます。情報は、E-mail:t-net@clc-japan.com、fax:022-727-8737まで。E-mailの場合は、タイトルを「情報提供」としていただき、①活動内容、②ご担当者名、③ご連絡先を記載ください。本通信の感想やご要望もお気軽にどうぞ！